

| 学校経営方針(中期経営目標) | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|--|--|
| <p>1 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。</p> <p>2 基本的な生活習慣を身につけ、自らを大切に他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。</p> <p>3 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。</p> <p>4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。</p> | <p>1 校内体制で授業配信や授業において、iPadや電子黒板の活用は徐々にではあるが進み、一定の成果は見られた。来年度の新入生が全員タブレットを持って授業に臨むことに対して、一層のスキルアップと準備が必要である。</p> <p>2 2・3年生における総合的な探究の時間ではESDを推進する取組も実施でき、2年生では学年発表会を行うことが出来た。</p> <p>3 コロナの影響で、国際交流、異文化体験等の活動はほとんど出来なかったが、インターネットを使ったオンライン交流や府教委の高校生サミットやハイブリッド研修に参加するなど、できる限りの国際教育活動を実施した。また、形を変えて実施できたサントリー講演会やシャコピー高校との文通は一定の教育的効果があったと考える。</p> <p>4 図書館の貸出冊数1,000冊を超え目標達成できたが、更なる読書意欲の向上と図書館の利用促進が必要であり課題である。</p> <p>5 スマートフォンの取り扱いについて、ある程度ルールが浸透してきた。一方で、登下校時や昼休みにはスマートフォンから離れられない生徒が一定数存在する。スマートフォンを使用している誹謗中傷など、他者への人権配慮は、次年度への課題である。</p> <p>6 私立大学への推薦入試での合格者数は増加したが、共通テストは厳しい結果に終わり、国公立大学への進学は難しかった。</p> <p>7 家庭の問題や対人関係のストレスから精神的に不安定な生徒、学習や生活場面に支援が必要な生徒が年々増加している。支援が必要な生徒全てに対応するには、物理的な時間と体制が必要である。</p> <p>8 魅力ある学校を目指すため、授業のさらなる改善をし、学習意欲の向上に努めるとともに、各種の学校行事を実施することにより生徒の意欲向上を目指す取組が必要である。</p> | <p>1 生徒の主体的な学びによる学力の向上と希望進路の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の入学生より生徒一人一台端末が導入されるのを受け、その利活用を行うとともに、更に主体的・対話的で深い学びの実現を図り、生徒の学習意欲を高める。また、各種のツール(Teamsやロイロノート等)を積極的に活用し、生徒の主体的な自学自習時間を増加させ、希望進路実現に向けた学力向上を図る。 <p>2 豊かな人間性と規範意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都府教育委員会からの「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」及び「グローバルネットワーク校」、ユネスコ及び文部科学省からの「ユネスコスクール認定校」の指定、日本の伝統文化の体験、国内外の高校生等との交流をオンライン交流を含め積極的に行い、国際教育・英語教育をさらに発展させ、グローバル人材の育成を行う。 部活動の活性化を図り、加入率・定着率を高め、学校全体として活気のある集団を形成することにより、生徒の心身の健全なる成長を図る。 生徒にけじめのある学校生活を過させることを通じて、規範意識の向上と公德心の育成を目指す。 全教職員が、すべての教育活動に人権意識を持って指導にあたる。 <p>3 広報活動等による積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、学校HPや「にしおつだより」の内容をさらに充実させるとともに、様々なツール(YouTube、Instagram等)を積極的に活用し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。 |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策(○取組計画・◇評価指標) | 評価 | 成果と課題 |
|-----------|----------------|---|----|--|
| 組織・運営 | ◇分掌間・教科間の協力推進 | ○ICTを積極的に活用して、業務内容の可視化やチェック体制の再構築を行い、業務の効率化や人為的ミスの削減を図る。日々の業務量を削減することで、生徒一人一台端末導入への対応や教育課程編成への対応に重点をおける体制を作る。 | B | ・Teamsの他に、ディスプレイを用いたアナウンスやモニターでの一覧表示等の工夫により、ICTを活用した連絡・連携ができた。 人為的ミスの削減に向けては更に検証と必要に応じた改善が急務である。 |
| 学習指導と進路指導 | ◇授業改善 | ○生徒の基礎学力と基本的な生活習慣の確立のため、担任・教科・教務部が欠課時数や学習状況等を連携して確認できるようにする。 ○主体的・対話的で深い学びに向けてICTを積極的に活用する。そのために分掌・教科が連携し、先進的な取組事例等を教職員間で共有して授業改善が進むようにする。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において出席停止が非常に多く、生徒の状況を把握することが難しかった。各分掌間の連携も十分でない面もあった。 ・ICT活用については昨年度以上に進んだが、授業改善については教職員間の共有が十分ではなく、教員による差も大きかった。 ・1年生から一人一台端末が導入され、情報のやりとりがしやすくなったが、まだまだ十分に活用できているとは言えない。 ・自学自習については、生徒間の差がますます開いている。 ・「グローバルネットワーク京都交流会」での英語プレゼンテーションや日本語ポスターセッションに参加したが、他校に比べて総探に関する校内の連携・協力体制には課題が残った。 ・シャコピー短期留学プログラムやアールントン長期留学プログラムなど、国際教育プログラムの復活ができた。また、インターナショナルデイなど、新たな取組にも着手できた。 ・3年7限補習など継続して取り組めた生徒は着実に力をつけた。 ・国公立大学推薦入試や就職・公務員試験で希望進路を実現できた。龍谷大・京産大の公募制推薦入試では、合格者を出すことが難しかった。 ・進路説明会や模擬面接など、丁寧な進路指導が行われた。 ・貸出冊数も1,200冊に近づいている。また教科でも読書記録をつけさせる取組も行った。視聴覚教室のプロジェクターの更新が行われた。 |
| | ◇学力の向上 | ○基礎基本を大切に、個々の生徒に対応したきめ細かな指導を行うため、ICTを積極的に活用する。 ○生徒一人一台端末導入受け、各種のツールを積極的に活用し、生徒の主体的な活動を促し、さらに自学自習時間を増加させることにより、さらなる学力の向上を目指す。 | C | |
| | ◇国際教育の推進 | ○総合的な探究の時間や各教科の学習、生徒会活動等、学校教育全体を通じて、ESD(持続可能な開発教育)を推進する具体的な取組を実施するとともに、米国短期留学プログラムや海外研修旅行等の国際交流活動を再開するための準備を進めるなど、異文化理解や国際貢献意識の涵養を目的とした国際教育の一層の推進を図る。 | B | |
| | ◇希望進路の実現 | ○3年7限講習、土曜講習、長期休業中の講習等の定着や充実を目指し、進路実現に向けて実力の向上を目指す。 ○オープンキャンパス、小論文指導、模擬面接、進路説明会等を通じて、生徒が具体的な進路目標に向けて、行動できるように支援する。 ○進路指導部と学年部及び各教科との連携を密にし、生徒個々の進路希望に応じた指導を徹底し、国公立大学・私立大学合格者数の増加及び進路決定率100%の実現を目指す。また、ICTの活用を進める。 | B | |
| | ◇図書視聴覚教育の充実 | ◇読書意欲の向上と図書館の利用促進 ○生徒の読書意欲向上と図書館利用の促進を図る取組を行い、貸出冊数1,200冊を目標とする。 | B | |
| 生徒指導と特別活動 | ◇規範意識の醸成 | ○スマートフォン、SNS、iPadの適正利用に向けた指導をするとともに、啓発活動にも力を入れる。 ○委員会活動を通しての啓発ポスターの作成など生徒自らの啓発活動を促進する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・啓発ポスターも作成され、一定成果があったと感じるが、自宅、学校問わず、スマートフォンやSNSの適正利用については、改善が必要。 ・3年間継続しての段階指導を行ってきたが、段階の上がる生徒が多い。 ・1年生の部活動の加入率が低く、また退部する生徒も多かった。一部の部を除いて部員数の確保が難しい。 ・日常的に登校時の交通安全指導を行ってきたが、自転車の乗車マナーなど更に指導が必要である。 ・互いにコミュニケーションを十分に取ることができず、相手に思いが通じないことが多い。相手のことを理解する大切さを伝える必要がある。 |
| | ◇特別活動や部活動の充実 | ○生徒が安全に登下校し、学習、学校行事、部活動に専念できる安心・安全な環境づくりを行う。 ○部活動の加入率・定着率を向上させ、部活動の活性化を目指し、リーダーを育成する。 ○部活動員集会を学期に1度は行い、他部の活動をお互いに認め合う場を設け、交流を進める。 | C | |
| | ◇交通安全指導の推進 | ○向日町警察署・長岡京市役所・大山崎町役場・本校PTAが連携して、登校時の交通安全指導を行う。 ○通学安全の指導を徹底するため、交通安全指導に加え、危険箇所における地点指導を行う。 | B | |
| | ◇人権教育の推進 | ○人権学習を通じて生徒の人権意識を高めるとともに、全教職員があらゆる教育活動において人権感覚を養う指導を行う。 | B | |
| 健康安全 | ◇環境・美化の推進 | ○学習環境を整える為に、日常の清掃活動をきめ細かく丁寧に行い、保健委員会を中心としたゴミの分別等、環境美化活動や広報活動を行うことで、学校全体の意識向上を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・昼食時に新型コロナウイルス感染症予防の呼びかけの放送を行ったり、定期考査の前に清掃点検をするなど、積極的に保健委員会が活動した。 ・今後、生徒数・教員数が減っていくが、清掃箇所は減らない。定期的な全員清掃をするなど、校内美化に努める必要がある。 ・個々の生徒の問題について担任や他分掌とも連携し迅速に対応できた。 ・教育相談会議や特別教育支援会議の内容を情報共有することができた。地域の専門機関と連携しケース会議を実施し、生徒の対応を協議することができた。 |
| | ◇生徒の実態把握と支援の充実 | ○健康診断や宿泊を伴う行事の際には保健調査を行い、健康状況を把握すると共に、学校医・関係職員と連携して健康管理を行う。新型コロナウイルス感染症に代表される感染症等の正しい予防の知識と自主的な対策に向けての行動ができるように、日頃から安全衛生の指導の徹底を図る。 ○多様な状況の生徒が増えてきているので、関係教員や他分掌と情報共有しながら丁寧な指導を行う。生徒の実態により、スクールカウンセラー及び地域の専門機関(医療・特別支援センター・児童相談所等)との連携により、学校における教育相談及び特別支援教育を充実させる。 | B | |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策（○取組計画・◇評価指標） | 評価 | 成果と課題 |
|-----------|----------------|--|----|--|
| 魅力ある学校づくり | ◇広報活動の充実 | ◇「志願者増加に向けた目標と対策」および「学校説明会・広報誌にしおつだより等の充実」 ○志願者増加に向けて、こまめに中学校との連携を図り「11月の志願者数160名（昨年100）、最終志願者を昨年より、のべ合計50名増加」させる。（目標 前期120中期150） ○近隣20中学校との連携を深める一方、他の地域へ範囲を広げた広報活動を行い、志願者増加を図る。（他の地域からの11月調査 第1志望者数 目標50名（昨年28名）） ○学校説明会において、積極的にICTを活用するとともに、中学生や保護者を惹きつけるような本校の魅力・特色などを発信する。また、説明会の参加者を昨年より「100名増加」させる。（昨年度47名増） ○広報誌にしおつだよりを「約月1回発行」し、中学生などに学校の取組や情報、生徒の活躍、本校の魅力を発信する。 ◇「在校生に向けた取組」と「WEB等による広報の充実」 ○各取組を紐付けし、国際教育の学びをより実感させる。また広報・図書部主催イベントを計画・開催し、学校生活をより楽しませることで本校の志願者増加につなげる。 ○校内モニターを活用し、在校生に向けた取組を行う。 ○ホームページをより見やすく使いやすいうものに「リニューアル」して、学校情報や本校の魅力を、よりわかりやすく外部に発信する。 ○「全部活動、学期に1回はHP更新」するとともに、ホームページ「全体の更新を平均週5回」を目指し、ホームページ閲覧者の増加に努める。 ○様々なツールを積極的に活用し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・前期志願者が微増、年間の説明会の参加者は、昨年より252名増、にしおつだよりの発行、ホームページ・インスタグラムの更新、校内生徒向けのイベント（にしおつDay）、校内モニター活用など、一定の成果があるなど、おおむね目標を達成することができた。 ・志願者はまだまだ少なく、特に地元の近隣中学校からの志願者が減っているのが、次年度への課題である。 ・インスタやYouTubeチャンネルは充実してきたが、ホームページのリニューアルを早急に進める必要がある。 ・今年度のスクールガイドはさまざまな機会に配布することができ、増刷して対応した。 |
| | ◇安心・安全な学校環境づくり | ○定期的に施設設備の安全点検を行い、危険箇所等を把握し、生徒の安全を確保する。 ○一人一台端末の導入にあわせ、校舎内でICT機器が活用できるようICT会議とも検討したうえで環境整備を計る。 ○衛生委員会で提起を受けた事項を中心に、保健部と十分協議のうえ、校内の衛生環境の向上に取り組み、学習環境を整える。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・校内のwi-fi設備の充実が、課題である。費用面の問題等から単年度で整備ができないため、引き続き継年でも取り組む必要がある。 ・100番棟トイレ改修に伴い保健部と連携し掃除用具を含む室内用品の刷新、床面コーティングの施工等、完成時の状態維持に努めた。 ・HR教室への換気扇、サーキュレーターの設定等、衛生環境の向上に取り組んだ。年度内に全普通教室にCO2モニター設置の予定である。 |
| | ◇学年の取組（3年） | ○進路実現に向け、早期に面談等の指導を実施。希望進路に向けた学習計画を立て必要に応じた指導・方策を学年で検討、共有し学年全体の意識を向上させる。 ○集団として質の向上を図るため、規則とマナーを守るだけでなく、学校・学級に帰属している意識を高めていく。 ○行事への積極的な参加を全体に促し、学級のみならず学年で一つのことに取り組むことへの意義を理解させ、学校生活が豊かになるように取り組んでいく。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・最終学年となり、進路実現に向けて全体的に落ち着いて過ごしていた。 ・生活指導など、3年間継続して指導した一定成果が表れてきた。 ・西乙祭文化の部において、クラスが1つになって取り組み、発表当日素晴らしい作品を披露できた。 |
| | ◇学年の取組（2年） | Where there's a will, there's a way.「意志あるところに道あり」 自らの意志で道を切り拓くような高校生を育てる。 ○社会へのWILL(意志) ー素敵な高校生になるためにー 社会の一員としてマナーを守り、自分にも他人にも誠実な生徒を育てる。 ○学びへのWILL(意志) ー夢を叶えるためにー 豊かな未来を実現するために、様々なことを学ぶ姿勢を持つ生徒を育てる。 ○自分へのWILL(意志) ープラス思考でー 自分の成長のために、何事にも常に前向きに取り組む生徒を育てる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識付けがまだまだ不十分な生徒がいる。来年度に向けた重要な課題である ・学年目標として掲げている意志が、まだまだ達成できていない生徒が見受けられる。学年のみならず、すべての教職員が協力して生徒を育てる体制が必要である。 |
| | ◇学年の取組（1年） | ○規範意識の育成・・・ルールを守り、時間を守り、約束を守るという当たり前のことができる、質の高い集団生活を送ることのできる生徒を育成する。服装・身だしなみ指導、遅刻指導を徹底する。携帯電話・スマートフォン、学習用タブレットの利用に関するリテラシーを高める指導をする。 ○学習習慣の確立・・・高校生として計画的・主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。日々の授業を大切に、各教科からの課題に誠実に取り組む姿勢を育成する。また、土曜講習や長期休業中講習への参加を積極的に促し、進路を意識した学習態度を早期に身につけさせる。 ○部活動や学校行事に積極的に取り組ませ、学年として活気のある集団作りをするとともに、リーダーの育成にも力を入れる。部活動への積極的な参加を促し、勉強との両立に努力させる。また、リーダーシップを発揮する場面を作り、生徒達自身が目的意識を持って文化的な高校生活を送れるよう支援する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンやSNSの利用、また遅刻や欠席など、安定した学校生活を送らせることに課題が残る。 ・学習習慣や主体的に学習に向かう態度が育っている生徒もいる一方、進路に対する意識の高まらない生徒も多い。 ・部活動や学校行事に積極的でない生徒もいるが、継続して部活動に取り組んでいる生徒は前向きに学校生活を送れている。 ・文化祭や体育祭などの学校行事において、クラスのリーダー的役割を担う生徒も育成することができた。 |

| | |
|-----------------|--|
| 学校関係者評価委員会による評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での教育活動について、制約がある中でも多くの行事が実施できた。西乙祭を始め多くの行事が実施できたことで、高校生活での高い満足度を得られていた。 ・徐々に以前の形に戻ってきているが、単に戻るだけでなく、ICTの活用など新しいものを取り入れながら、変えないものと変えるものを見極めて教育を進めてほしい。 ・短期留学、長期留学など、次年度から再開するが、西乙訓の魅力である”国際”を実践する意味でもさらに発展させてほしい。 ・部活動の活性化に向け、加入率を高め、定着をはかる。さらに、部活動の精選も考慮し、新しい部活動の導入など魅力ある工夫が必要。 ・西乙訓高校の魅力伝えるために、新しい企画を打ち出し、生き生きしている生徒の様子を地域にアピールする機会を増やしてほしい。 |
|-----------------|--|

| | |
|---------------|---|
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の一人一台端末の導入が2学年に拡がる。授業改善を始め、さらなるICT活用に向けての対応が望まれる。 ・ICTを活用して、生徒に係る情報共有が速く正確にできるようにシステムを改善する必要がある。 ・コロナとの共存の中で、ここ数年の状況が大きく変化してくる。出席停止の要件の変更など早急に対応を検討することが望まれる。海外との交流についても準備を進める ・総合的な探究の時間等を活用し、ユネスコスクール、グローバルネットワーク校としての取組をさらに充実させ、校内体制を構築し、本校の特色を積極的にアピールしていく。 ・部活動の加入率を上げるとともに、継続して部活動に参加できる環境をつくる。少人数での活動になる場合もあり、他校との合同チームでの参加を模索する。部活動の精選も含め、在り方を検討する。 ・学年集会や学年だよりなどを十分に活用して、担任、学年を始め、教職員の思いを生徒にタイムリーに伝える。 |
|---------------|---|